



第2章 それぞれの特色を活かす 地域別計画



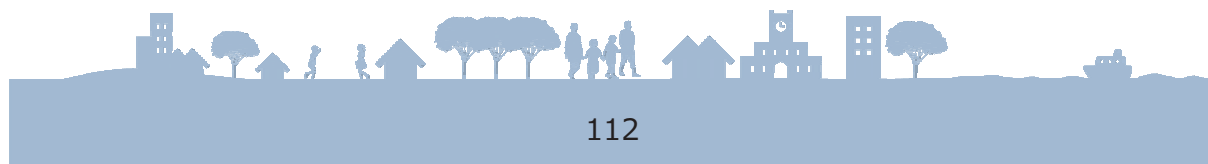
1 地域別計画の役割

基本構想では、『市民力・地域力によるまちづくり』を基本理念に掲げ、市の将来都市像、まちづくりの基本目標を総合的・体系的に整理し、本市の将来像を描いてきました。

基本構想で描いた将来像を実現するためには、市民に身近な地域単位での様々な取り組みが必要となります。

市域という広域的な視点を持ちつつも、地域ごとの特性や課題、求められている役割に応じて、目指すべき地域の目標設定と、その実現に向けたまちづくりは、地域の多様な主体が当該地域のまちづくりの方向を共有し、適切な役割のもと、多様な連携・協働により取り組みを推進させていきます。

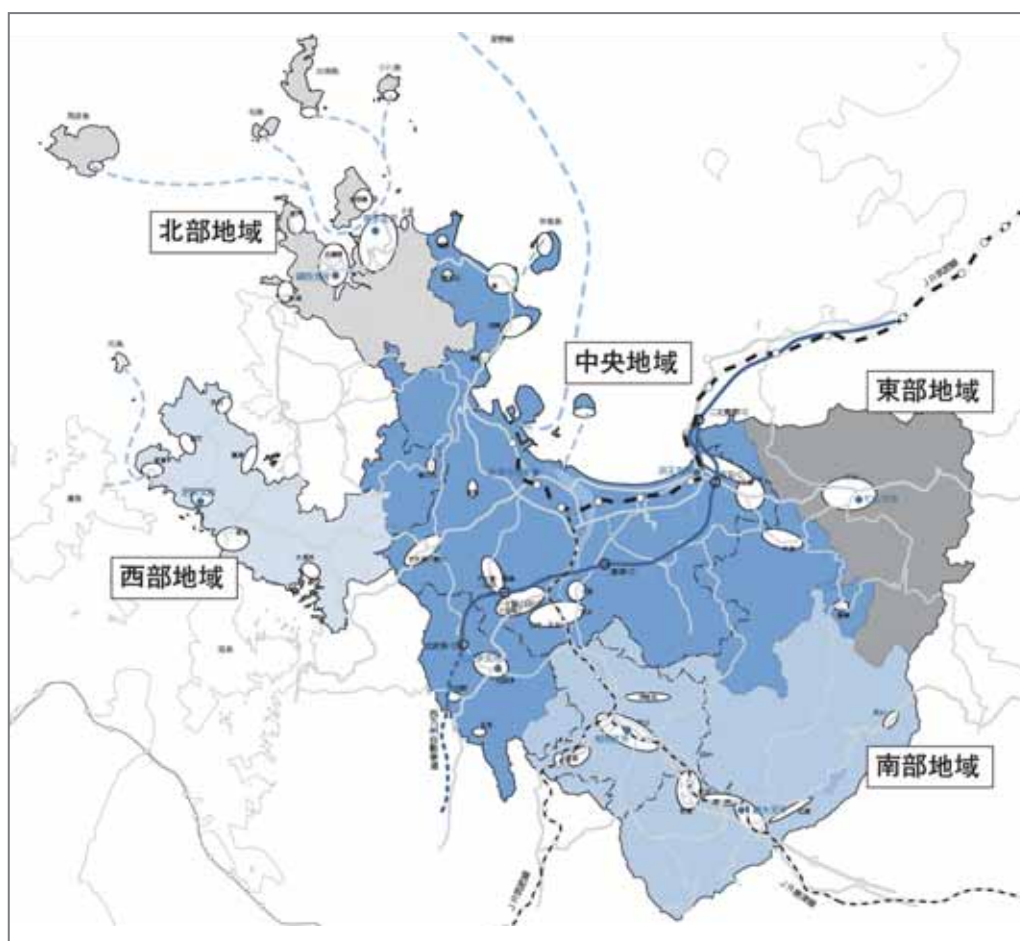
基本計画では、各地域における課題を整理し、取り組みの方向性を掲げます。なお、具体的取り組みについては、別途個別計画を定めて、事業化を図ります。



2 地域区分の設定

第1次総合計画の基本構想では、合併時に策定した新市建設計画を踏まえて本市を5つのゾーンに分け、地域別整備の方針を定めていましたが、基本計画の重点プロジェクトの中で9地区の地域別計画を別途定めたため、実質は後者に基づいて施策を進めてきました。

そこで、第2次総合計画の基本計画においては、①自然的要素、②歴史・文化的要素、③将来都市構造図のゾーン、④市内における通勤通学状況、⑤都市性格分類などの地域特性を踏まえ、次に示す5つの地域区分で地域別計画を掲げます。



3 地域別計画

(1) 中央地域

(特徴と課題)

西九州自動車道及び佐賀唐津道路の開通により、本地域は福岡都市圏、佐賀都市圏とのアクセス性が非常に高くなり、産業面や観光交流の面で大きな効果が期待されています。しかし一方で高速交通体系の整備は、他都市への単なる通過点となる恐れもあります。

本地域には、西九州自動車道の唐津 IC、浜玉 IC、北波多 IC が存在するため、都市中心拠点などの各拠点の魅力向上と連携強化を図り、交流人口の流入を促進する必要があります。

観光情報発信等の施設整備や他地域への物流・交流軸となる国県道の整備を促進し、他地域への周遊を促すことにより、物流・交流軸及び周遊起点を確立し、本市全体の活力向上を図る必要があります。

また、中央を唐津湾へと流下する松浦川を都市骨格に、沿岸部には玄海国定公園に指定されている虹の松原、鏡山、背後には豊かな山々が広がるなど、市街地に近接した場所に市民の憩いの場となる美しく豊かな自然環境が存在しています。

一方、浜玉地区などの市街地周辺部では、農地転用による宅地開発が虫食い的に行われるなど非効率な市街化が進んでいます。北波多地区においては、西九州自動車道の IC 開通に伴う開発等による地域環境の急激な変化が懸念されています。

美しい自然環境や地域固有の景観を今後も保全・活用していくためにも、都市計画制度等の活用や市民協働による取り組みなど、調和のとれた土地利用を進める必要があります。

(まちづくりの方向性)

① 広域交通網を活かした観光交流や産業振興に寄与する地域づくりを推進

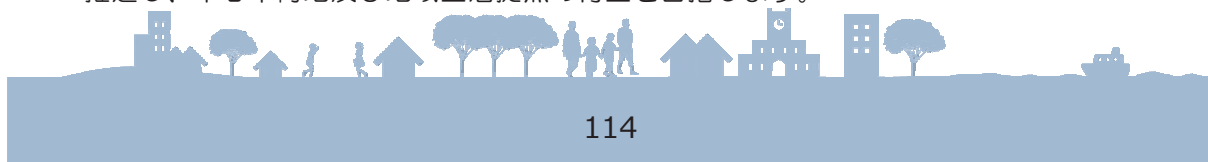
西九州自動車道、佐賀唐津道路を始めとした広域交通網の整備、及び地域内幹線道路網の整備による各拠点間の連携強化を図り、観光交流や産業振興の推進、並びに拠点連携の相乗効果による地域活力の向上を目指します。

② 地域固有の自然環境や景観と調和した地域づくりを推進

西九州自動車道の開通など本市の交通体系が大きく変化する中、玄海国定公園に指定された風光明媚な唐津の風景や自然環境を後世に残していくため、自然環境の保全を前提に、周辺環境と調和した計画的な土地利用による地域づくりを進めます。

③ 貴重な歴史・文化資源を活かした観光交流による地域づくりを推進

旧高取邸や唐津焼、唐津くんちや浜崎祇園など、貴重な歴史・文化資源を有する中央地域においては、歴史・文化資源の保全とハード・ソフト事業の連携した活用により観光交流を推進し、中心市街地及び地域生活拠点の再生を目指します。



(2) 東部地域

(特徴と課題)

美しく豊かな自然環境に恵まれた地域ですが、近年においては、農林業従事者の高齢化や後継者不足等により、荒廃林や耕作放棄地が目立つようになり、また、桧原湿原においては希少植物の盗掘や湿地への侵入などのトラブルが目立つなど、森林環境の悪化が懸念されています。

水源かん養や土砂崩壊防止、生物多様性保全など、多面的機能を有する森林環境の保全は重要な課題であり、今後は所有者だけでなく国民全体で森林を支えるという住民意識の醸成を図る必要があります。

また、特産品販売やグリーンツーリズム活動などによる地域づくりを進めていることから、都市部からの来訪者が非常に多く、都市・農山村交流が活発に行われている地域です。

今後においても、都市・農山村交流による地域活力を向上させるためには、福岡都市圏、佐賀都市圏及び南部地域方面からの観光・交流軸となる国県市道の改良により本地域までのアクセス性を向上させていく必要があります。

(まちづくりの方向性)

① 県立自然公園の良好な森林・自然環境の保全・活用を推進

公益的機能を有する森林や、県自然環境保全地域に指定された貴重な「桧原湿原」などについて、新たな担い手の活用など多様な手法により保全に取り組むとともに、自然体験や環境学習の場として積極的な活用を進めます。

② 自然環境等の資源や体験活動を活かした都市・農山村交流を推進

美しい自然環境とその中で育まれた農作物、それらを体験できる滞在型観光農園など、都市部住民を惹きつける「ななやまブランド」を活用した都市・農山村交流施策を進め、地域活力の向上を目指します。



(3) 南部地域

(特徴と課題)

長崎自動車道に近く佐賀唐津道路の沿線上に位置する当地域は、佐賀方面だけでなく長崎方面や福岡都市圏へのアクセス性に優れているという立地条件を有しています。

この立地条件を活かすため、県と市では共同で工業団地（新産業集積エリア唐津）を開発し企業誘致を進めているところで、今後企業の進出による雇用機会の創出が期待されています。

一方で新規就業者の居住の場が不足しているという現状もあることから、雇用促進住宅の整備など定住促進にも繋がるような基盤整備も必要となっています。

松浦川、厳木川周辺には、鶴殿石仏群、アザメの瀬、見帰りの滝、葎野の棚田などの観光・交流資源や、中島山笠、相知くんち、天衡舞などの伝統芸能・文化が多数存在しています。

情報発信や観光周遊ルートの整備など、本地域の観光・交流資源の周遊、さらには他地域への観光周遊を促し、地域活力の向上を図る取り組みを進める必要があります。

(まちづくりの方向性)

① 広域交通網を活かした産業振興に寄与する地域づくりを推進

佐賀唐津道路を始めとした広域交通体系の整備及び地域内幹線道路網の整備による各拠点間の連携強化を図り、産業振興の推進、並びに拠点連携の相乗効果による地域活力の向上を目指します。

② 観光・交流資源を活かした観光周遊ルートの確立を推進

観光・交流資源を活用し、観光周遊ルートと連携した観光情報発信や観光インフラ整備を図り、もてなし空間の形成による都市・農山村交流を進めます。



(4) 西部地域

(特徴と課題)

豊富な観光・交流資源が存在していますが、市全体の観光周遊ルートを構築し、地域及び市全体の活力を向上させるためには、西の観光・交流拠点としての位置づけを強化していく必要があります。

そのためには、本地域の美しい自然景観や周辺の観光・交流資源等に磨きをかけるとともに、周遊を促す道路の整備などが重要です。

また、周辺の上場台地では、さがほのか、タマネギ、佐賀牛などの農畜産物が、沿岸部の漁港では牡蠣などの海産物が豊富であるなど、市内でも一次産業が盛んな地域であり、今後の展開が期待されるコスメ産業における原材料生産地として有力な候補地となり得る地域の一つでもあります。

これからの地域づくりにおいては、観光・交流資源と農漁業との連携による魅力発信により地域振興に結びつけていくことが必要となっています。

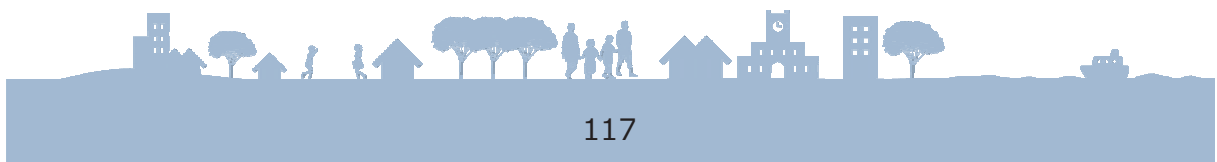
(まちづくりの方向性)

① 観光周遊ルートの確立を推進

市全体の観光周遊ルートの構築のため、地域の既存の観光・交流資源を磨き上げて魅力を高めることはもちろんのこと、中央地域や北部地域からの観光周遊ルートとなる国道 204 号、地域内での観光周遊ルートとなる県道、市道について、道路線形の整備や計画的な維持管理を図るなど、観光客の回遊性の向上を目指します。

② 地域資源と食を活かした農漁村交流促進による地域づくりを推進

いろは島に代表される玄海国定公園に指定された美しい沿岸域や、佐賀牛、さがほのか、水産物などの豊かな食材、及び各地に点在する観光・交流資源の活用を図り、都市・農漁村交流を促進し、農業・漁業などの一次産業の振興を進めます。



(5) 北部地域

(特徴と課題)

玄海国定公園に指定された本地域の沿岸部には、美しく豊かな海岸が広がっており、この環境を活用して波戸岬海中公園やキャンプ場、海水浴場、少年自然の家などのレクリエーション機能が充実した地域となっています。沿岸域の良好な自然景観は後世に残すべき貴重な景観です。

内陸部には、上場台地の優良農地が広がっていますが、近年では営農者の高齢化と後継者不足から、管理されていない田畑の増加も懸念されています。降雨時には、内陸部からの土砂流入により湾内水質が悪化するなど漁業にも影響を与えていることから、湾内水質環境の改善を図る取り組みが必要です。

また、「呼子朝市」や「名護屋城跡並びに陣跡」など全国区の観光・交流資源を有することからも年間約 180 万人の観光客が訪れる本市の中でも代表的な観光地となっています。しかしながら、本市全体の観光周遊ルートの確立を考えると、観光・交流軸となる道路網の強化や玄海町、西部地域と連携した観光情報の発信など、玄界灘西回り方面の観光周遊ルートの強化を図る必要があります。

(まちづくりの方向性)

① 玄海国定公園に指定された美しい自然環境・景観の保全を推進

玄海国定公園に指定された美しい沿岸部の自然環境・景観について、各種法令による環境の維持・保全を図るとともに、上場台地に広がる農地の保全、耕作放棄地の解消を目指します。

② 体験型観光の導入により、地域活力の向上を推進

持続可能な観光・交流の地域づくりを進めるため、既存観光・交流資源の保全・活用とともに、地域の基幹産業である農業・漁業の振興を行い、両者を連携させたグリーンツーリズム・ブルーツーリズムなどのエコツーリズムによる「体験型観光」を進めます。

③ 歴史・文化の連携により、観光・交流拠点機能を強化

鎮西の歴史、呼子の食文化と趣向の異なる観光資源を、周遊ルートの設定や観光インフラ整備等により融合・連携させ、相乗効果により本市の観光・交流拠点としてのさらなる強化を目指します。また、本地域だけでなく周辺地域との連携による相乗効果も目指します。

